

平成 29 年度 教育研究活性化経費の評価結果について

本経費は、学内予算を競争的に配分し、特色ある教育・研究の活性化等を図ることを目的に平成 12 年度から導入されたものです。研究（若手）プロジェクト、その他（教育・社会貢献等）プロジェクトに採択された課題については、その研究期間満了の翌年度に評価を実施することになっています。研究実施期間が平成 28 年度末までの課題（22 件）について、成果報告会を開催するとともに、執行部を評価委員とする評価を実施しましたので、その結果を公表します。

教育研究活性化経費の概要

1. 趣旨

本学のプレゼンスを向上させ、独自性を出すことを目的とした教育、地域貢献等を充実するためのプロジェクト並びに本学における学術研究の発展に資するため、今後活躍が期待される若手教員に対し、必要な経費を配分する。

2. プロジェクト類型

研究（若手）	申請額が 100 万程度の申請
その他（教育、社会貢献等）	内容精査後、決定

※「若手」については、39 歳以下（年度末年齢）の教員のみ申請可

評価について

1. 評価方法について

成果報告書を作成するとともに、成果報告会にて執行部等の評価委員に対し成果を発表する。評価委員は書面及び成果発表に基づき、評価を実施する。

2. 評価委員

学長、理事・副学長、副学長、学長特別補佐

3. 評価の観点

1. 当初計画の達成度
2. 研究成果

4. 評価の採点方法

評価の観点について総合的に判断し、5 点満点で採点の上、各評価委員の平均点を算出し、3.7 点以上=A、2.5 点以上 3.7 点未満=B、1.5 点以上 2.5 点未満=C、1.5 点未満=D とした。

<平成 29 年度評価一覧>

区 分	所 属	氏 名	課 題 名	評 価
若手	機械工学系	秋月 拓磨	身体動作に着目したドライバの個人性評価に関する研究	B
若手	機械工学系	松原 真己	車両インテリジェント制御実現のためのタイヤの接触ダイナミクス	C
若手	機械工学系	安部 洋平	しごき加工におけるナノ粒子を添加した潤滑油による耐焼付き性向上メカニズムの解明	B
若手	機械工学系	永井 萌土	微生物を利用した環境応答デバイスアレイの開発	B
若手	機械工学系	石井 陽介	積層構造の非線形超音波伝搬挙動の解明と新しい非破壊評価法への展開	B
若手	機械工学系	田崎 良佑	予測型制御戦略に基づく複雑鋳物成形の高速高品質化	B
若手	電気・電子情報工学系	岩田 達哉	農業応用に向けた小型・低消費電力 CO2 センサの研究	B
若手	電気・電子情報工学系	後藤 太一	スピン変調 Q スイッチレーザーに向けたパルス磁界発生回路の作製	A
若手	電気・電子情報工学系	東城 友都	高容量リチウムイオン電池電極材料を内包したカーボンナノチューブの電気化学特性評価および、その結晶構造解析	B
若手	電気・電子情報工学系	川島 朋裕	スラッシュ窒素冷却による次世代超伝導ケーブルの電気絶縁構成の高性能化に関する研究	B
若手	電気・電子情報工学系	針谷 達	平滑 DLC 自立膜実現のための水溶性ナノ結晶薄膜の形成	B
若手	電気・電子情報工学系	山根 啓輔	フレキシブル太陽電池に向けた Si 基板上 AIP 系液晶の成長と薄膜転写技術の開発	A
若手	電気・電子情報工学系	宮路 祐一	無線全二重を活用したアクセス制御の開発	B
若手	環境・生命工学系	荒川 優樹	室温付近で液晶性を示す π 共役系分子の合成と光・電子特性	A
若手	環境・生命工学系	伊藤 博光	C60 内包メソポーラスシリカを前駆体としたマッカイ結晶の創製	B
若手	環境・生命工学系	栗田 弘史	油中水滴の静電的操作技術を応用した遺伝子導入	A
若手	環境・生命工学系	広瀬 侑	独自の多波長光照射装置の製作とオミクス手法への応用	A

区 分	所 属	氏 名	課 題 名	評 価
若手	建築・都市システム系	松尾幸二郎	ビッグデータを活用した抜け道交通の実態把握および対策効果予測手法の構築	B
若手	建築・都市システム学系	林 和宏	センシング技術に基づく液状化被害建物の健全度評価システム開発	B
若手	建築・都市システム学系	松田 達也	波浪場における掃流力と透水力を考慮した海底地盤の不安定化現象に関する検討	A
その他	機械工学系	福本 昌宏	産学が協働する独自 MOT 新教育制度の構築に向けた調査研究	A
その他	総合教育院	池松 峰男	英語力向上に与える国語力及び国語力強化授業の効果の検証	B

(平成 30 年 1 月 11 日掲載)